

第2回学校関係者評価委員会

(学校評価・前期の結果及び考察)



令和6年9月30日(月)18:30(於:校長室)

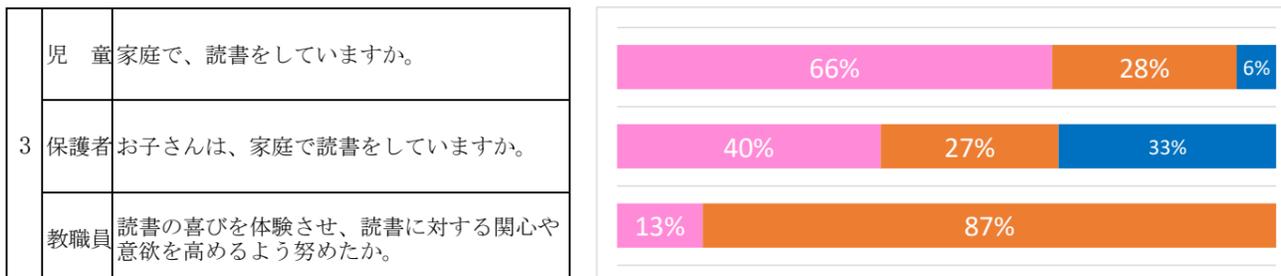
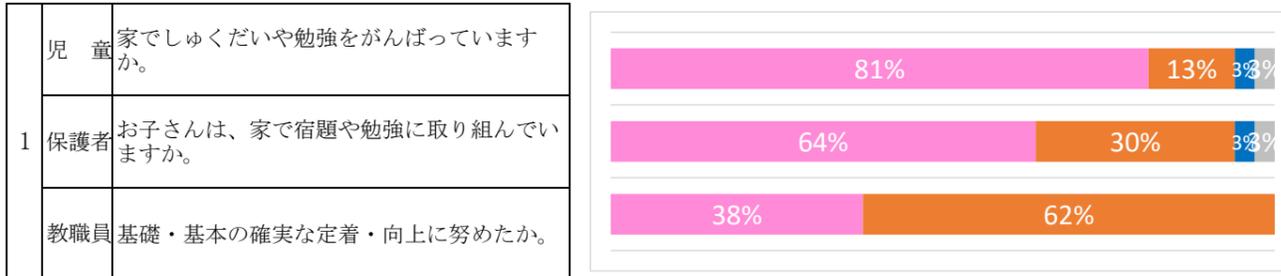
八幡浜市立双岩小学校

令和6年度 双岩小学校 学校評価対応表

| | 学校教育計画～重点目標～ | 児童アンケート | 保護者評価 | 教師自己評価 |
|----|--|--|--|---|
| 1 | 自ら学び、考え、正しく行動しようとする児童の育成に努める。 ・心の教育の充実、自己肯定感の向上 ・確かな学力の定着と向上 ・読書活動の推進 | 家でしゅくだいや勉強をがんばっていますか。 | お子さんは、家で宿題や勉強に取り組んでいますか。 | 基礎・基本の確実な定着・向上に努めたか。 |
| 2 | | 学校の授業はよく分かりますか。 | お子さんは、授業は分かりやすい、楽しいと思っていますか。 | 授業改善を心掛け、分かりやすい授業づくりに努めたか。 |
| 3 | | 家庭で、読書をしていますか。 | お子さんは、家庭で読書をしていますか。 | 読書の喜びを体験させ、読書に対する関心や意欲を高めるよう努めたか。 |
| 4 | | | | 体験的な学習や問題解決的な学習を重視し、自ら学び自ら考える力の育成に努めたか。 |
| 5 | 困難や目標に向かって挑戦し、やり抜こうとする態度を育てる。 ・児童理解と望ましい生活習慣の確立 ・人権尊重を基盤とし、互いに高め合いながら進もうとする集団の育成 ・教員の持ち味を生かし、互いをカバーし合う組織力の向上 | 学校へ行くのは楽しいですか。 | お子さんは、学校に楽しく通っていますか。 | 学校生活の中で、児童の活躍の場面を作ることができたか。 |
| 6 | | 勉強や運動などの学校の活動を、あきらめずにねばり強く取り組むことができましたか。 | お子さんは、勉強や運動などの学校の活動にねばり強く取り組んでいますか。 | 児童が勉強や運動などの学校での活動に、ねばり強く頑張れるよう支援できたか。 |
| 7 | | 先生たちは、話をよく聞いてくれていますか。 | 学校は、保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応していると思えますか。 | 児童の話や保護者の相談に対し、しっかり耳を傾け、適切な対応に努めたか。 |
| 8 | | 家で手伝いができましたか。 | お子さんは、手伝いをよくしていますか。 | 勤労奉仕する児童の育成に努めたか。 |
| 9 | | 毎日、なにか運動をしていますか。 | 学校は、子どもの体力向上や健康増進を図る教育活動のために努力していると思えますか。 | 個の特徴を理解し、適切なアドバイスで体力づくりを支援することができたか。 |
| 10 | | 家庭で決めたゲームや動画の時間を守れていますか。 | 学校は、家庭と連携しながらゲーム・動画についての約束を作り、守らせるよう努めていますか。 | 家庭と連携し、児童がゲーム・動画についての約束を守るよう努めたか。 |
| 11 | | きまりを守って、正しく行動できましたか。 | 学校はお子さんの言葉遣いや規範意識を高めるための指導に努めていますか。 | 児童の間違った行動に対して、きちんと指導することができたか。 |
| 12 | | 安全に気をつけて生活していますか。 | 学校は、児童の安全確保や施設・設備の安全管理ができていますか。 | 危機管理意識を持ち、子どもの安全確保に努めると共に、安全な学校環境づくりに努めたか。 |
| 13 | | | | 学校教育目標の達成に向け、自分の校務分掌を自覚し、責任を持って取り組むことができたか。 |
| 14 | | | | 業務改善を図り、ゆとりある職務遂行と健康管理に努めることができたか。 |
| 15 | 温かい地域の中で、認め合い、助け合える集団を育成する。 ・家庭・地域・関係機関との連携 ・地域行事への参加と双岩を愛する心の育成 ・命を大切にす教育活動の推進 | 地域の人にあいさつができましたか。 | お子さんは、家庭・地域で挨拶ができていますか。 | 挨拶や返事のできる児童の育成に努めることができたか。 |
| 16 | | 公民館や地域の行事にせっきよくてきに参加できましたか。 | 学校は、地域と連携した教育活動ができていますか。 | 家庭・地域と連携をとり、信頼される学校づくりに努めたか。 |
| 17 | | 学校での様子などを、家の人によく話しますか。 | お子さんは、学校であったことをよく話しますか。 | ハッピーテーブル20の推進に努めたか。 |
| 18 | | 友達を大切にしていますか。 | 学校は子どものよさに目を向け、一人一人を大切にした教育を行っていると思えますか。 | 児童間のトラブルに対して、公平に処理し、教職員で情報を共有したか。 |
| 19 | | いじめのない楽しい学校にしようがんばっていますか。 | 学校は豊かな心や命を大切に、いじめのない学校づくりに努めていると思えますか。 | 豊かな心を育み、命の大切さを伝えながら、いじめのない学校づくりに努めたか。 |



自ら学び、考え、正しく行動しようとする児童の育成に努める。



<考察と後期への方向性>

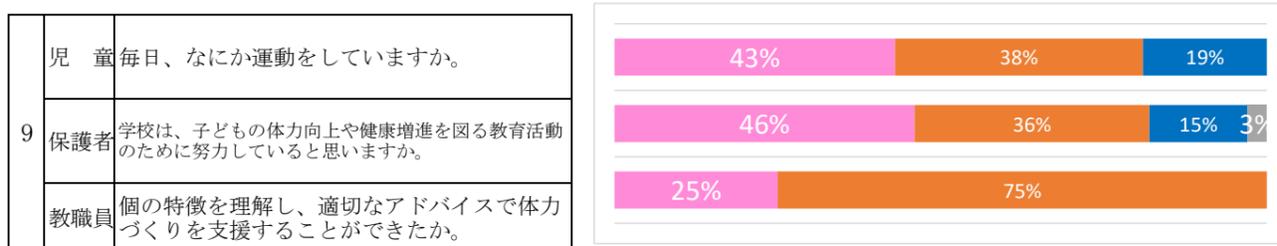
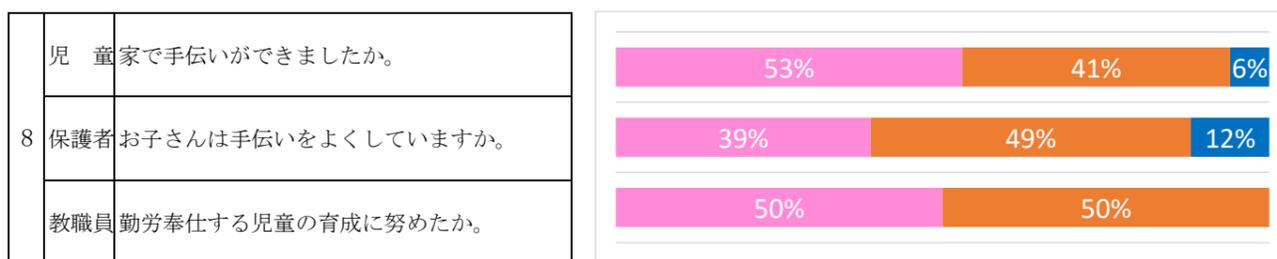
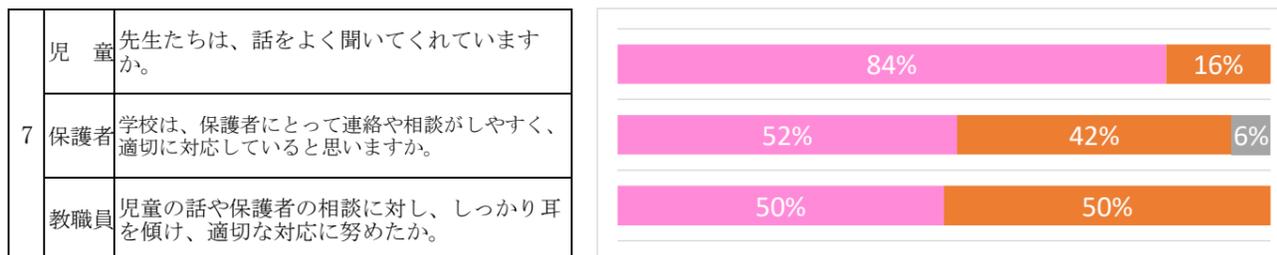
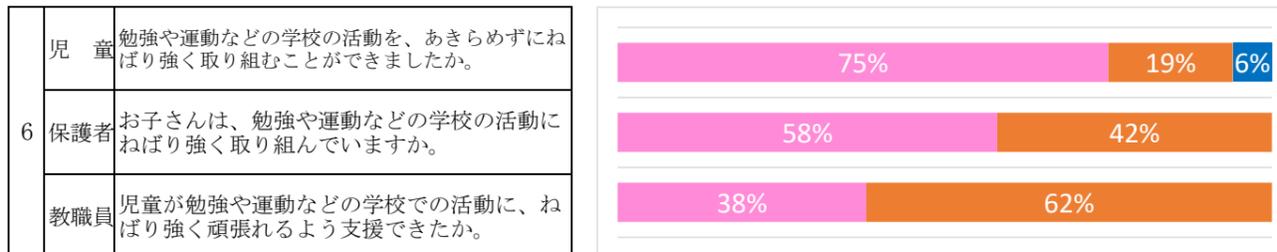
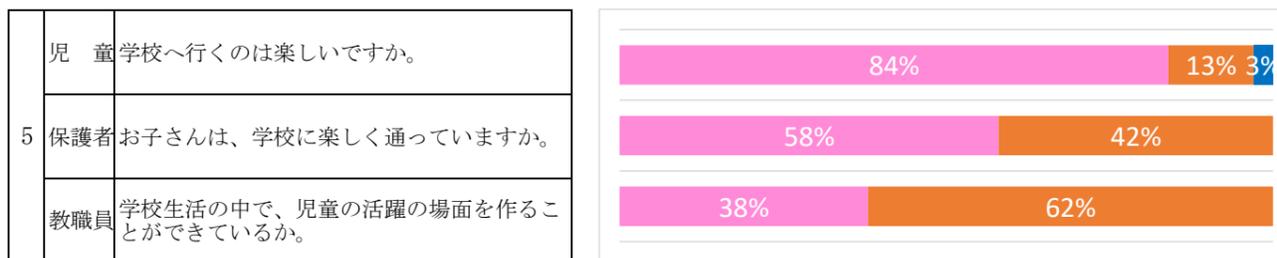
<考察>

- 児童の自己評価としては、主体的に宿題や学習に取り組んでいるとの結果（思う81%・やや思う13%）であった。それに対して保護者（思う64%・やや思う30%）と教職員（思う38%・やや思う62%）も概ね良好な結果として捉えている。
- 授業に対する分かりやすさについては、児童（思う69%）、保護者（思う49%・分からない12%）、教職員（思う49%・分からない13%）という結果であったが、その割合は、授業改善の必要性を感じさせる結果となった。
- 読書については、児童（思う66%・やや思う28%）と保護者（思う40%・やや思う27%）の結果に差は見られるものの、学校では児童が読書に親しんでいる様子が見られる。保護者（思うわない33%）の結果を見ると、家庭での読書時間が増えるような取組を検討していく必要がある。
- 質問に対する教職員の回答としては、やや思う（100%）という結果であった。1学期は、運動会などの学校行事や児童の実態把握（学習面・生活面）を配慮しながら、教育課程に位置付けられた学習を行っている。実際に指導した成果としては、教職員が改善の余地を感じている。

<後期への方向性>

- 引き続き、家庭との連携を図りながら、基礎基本を大切にした授業、家庭学習の定着を目指した取組を行っていききたい。
- デジタルとアナログのベストミックスを意識した授業改善に取り組み、分かりやすい授業展開に努める。
- 休日を利用した親子読書を奨励するなど、家庭での読書時間を増やす取組を進めていきたい。
- 2学期は、体験活動を通じた学習内容も増えるため、問題解決学習も含めた取組を効果的に行っていききたい。

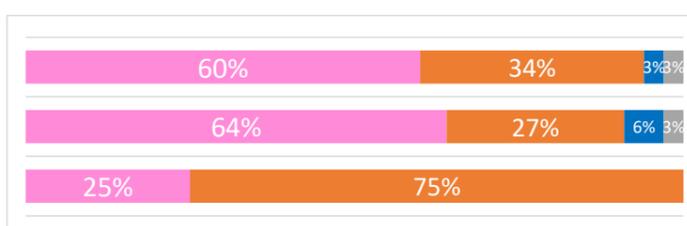
困難や目標に向かって挑戦し、やり抜こうとする態度を育てる。



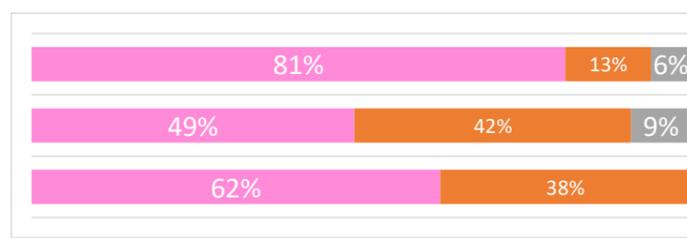
<考察と後期への方向性>

| | |
|---|--|
| <p><考察></p> <p>5 質問に対して、児童（思う84%・やや思う13%）、保護者（思う58%・やや思う42%）という結果が出ていることから、通学に対する不安は感じられない。ただし、教職員の設問においては、児童が活躍する場がやや足りなかったことが分かる。</p> <p>6 児童と保護者、教職員の結果を見ると、「あきらめずに粘り強く取り組む」ことに対する捉え方に差が生じている。児童（思う75%・やや思う19%）は自身の取組を高く評価しているが、今後の期待値を含め、保護者（思う58%・やや思う42%）、教職員（思う38%・やや思う62%）は、やや足りないと感じている。</p> <p>7 児童（思う84%・やや思う16%）から見た教職員の対応は良好である。保護者（思う52%・やや思う42%）と教職員（思う50%・やや思う50%）の数値からは、互いの信頼関係をさらに一歩進めていきたいという考えが読みとれる。</p> <p>8 家庭での手伝いに対して、保護者（思う39%・やや思う49%・思わない12%）は、不十分さの表れとして捉えられる。児童（思う53%・やや思う41%・思わない6%）も似た傾向にある。学校でも勤労奉仕などに係る活動を重視していきたい。</p> <p>9 運動に関する質問については、児童（思わない19%）、保護者（思わない15%）という結果が示すように、十分な取組ができていない。具体的な取組を家庭に提示するなど、連携を密にして取り組んでいきたい。</p> <p><後期への方向性></p> <p>○ 今後も児童理解のために行う取組を定期的に行いながら、充実させられるように努めたい。2学期は、陸上部、音楽部の活動や学芸会などが控えているため、児童の活躍の場を確保し、自己肯定感を高められるようにしたい。</p> <p>○ 質問にある「ねばり強さ」は、学校教育目標にあるキーワード「やり抜く」やめざす児童像「自分を鍛え、がんばり抜く子」とも関連が深く、本校の教育活動における最重要ポイントである。心身ともにたくましい双岩つ子を育成するためにも、教職員が学習と運動の両立に向けてしっかりと目的を持って取り組んでいきたい。</p> <p>○ 1学期が終わり、児童一人一人の性格や思考について把握することができた。今後も児童に対して、「傾聴」の姿勢を保ちつつ、指導と支援の部分を区別し、本当の信頼関係を築くことができるように心掛けていきたい。</p> <p>○ 児童の多くは、常時の清掃活動に黙々と取り組むことができている。家庭での手伝いについては、状況によって様々であるが、学校内での勤労奉仕的活動を通して、児童自身が家庭を支える一員であることを自覚できるように促していきたい。</p> <p>○ 先日、今年度の体力アップ推進計画を策定し、本校児童の運動能力における課題（瞬発力、跳躍力、走力）が明確になった。外遊びに運動能力向上に役立つ動きを取り入れたり、家庭においてICTを活用した縄跳び練習に取り組んだりして、課題克服に向けての手段を講じたい。</p> | |
|---|--|

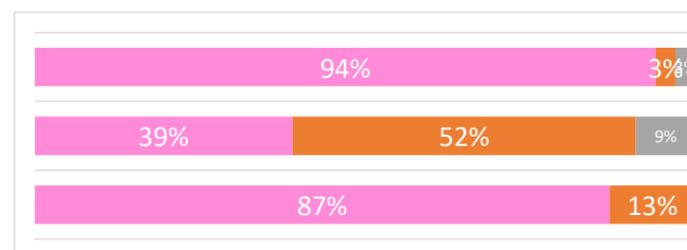
| | | |
|----|-----|--|
| 10 | 児童 | 家庭で決めたゲームや動画の時間を守れていますか。 |
| | 保護者 | 学校は、家庭と連携しながらゲーム・動画についての約束を作り、守らせるよう努めていますか。 |
| | 教職員 | 家庭と連携し、児童がゲーム・動画についての約束を守るよう努めたか。 |



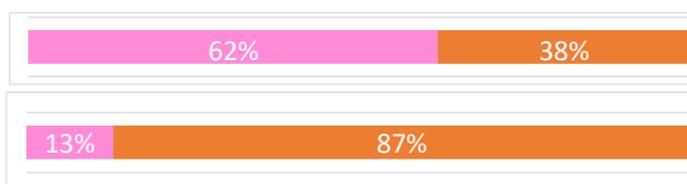
| | | |
|----|-----|-------------------------------------|
| 11 | 児童 | きまりを守って、正しく行動できましたか。 |
| | 保護者 | 学校はお子さんの言葉遣いや規範意識を高めるための指導に努めていますか。 |
| | 教職員 | 児童の間違った行動に対して、きちんと指導することができたか。 |



| | | |
|----|-----|--|
| 12 | 児童 | 安全に気をつけて生活していますか。 |
| | 保護者 | 学校は、児童の安全確保や施設・設備の安全管理ができていますか。 |
| | 教職員 | 危機管理意識を持ち、子どもの安全確保に努めると共に、安全な学校環境づくりに努めたか。 |



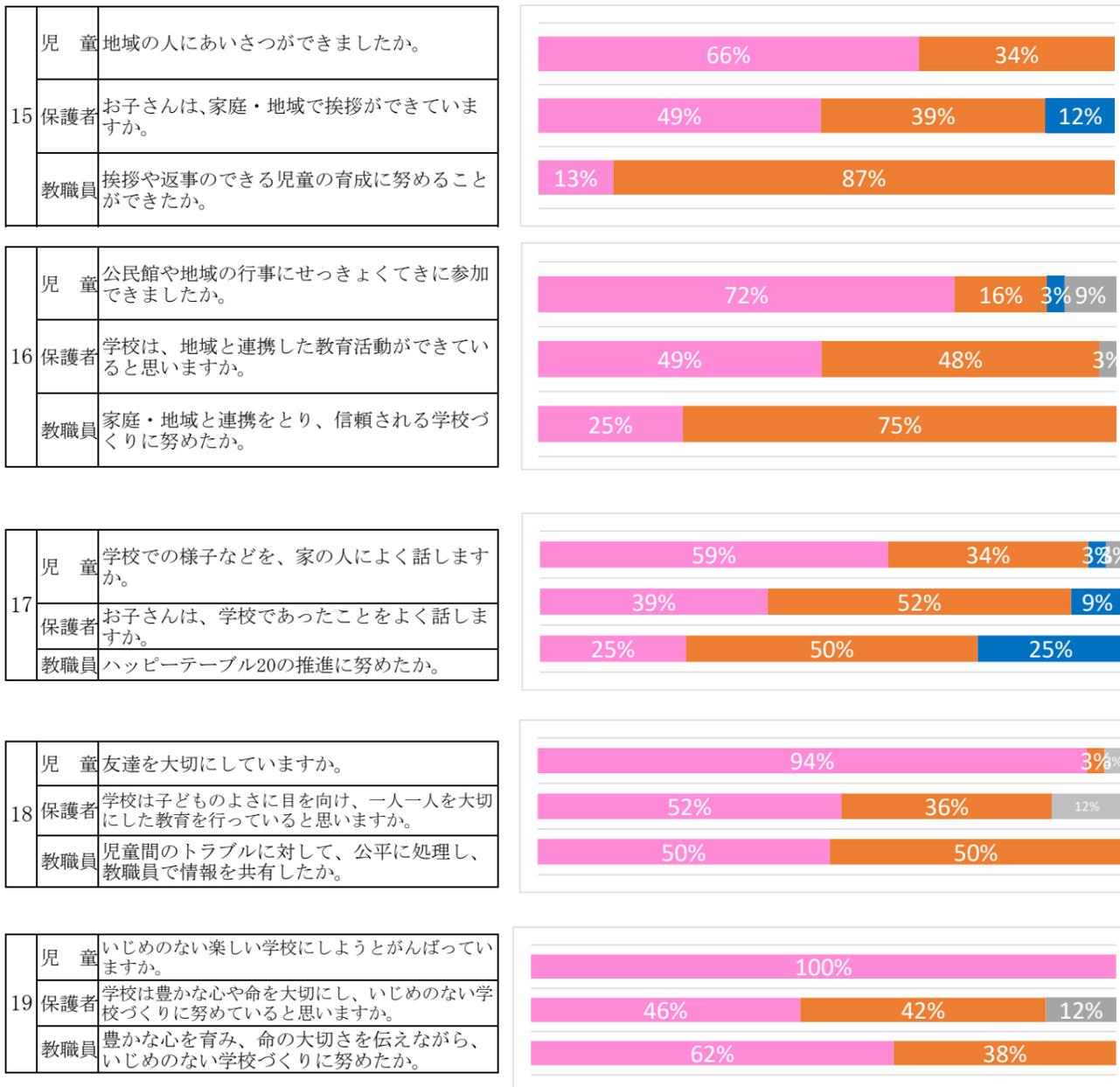
| | | |
|----|-----|---|
| 13 | 教職員 | 学校教育目標を達成に向け、自分の校務分掌を自覚し、責任を持って取り組むことができたか。 |
| 14 | 教職員 | 業務改善を図り、ゆとりある職務遂行と健康管理に努めることができたか。 |



<考察と後期への方向性>

| | |
|-----------|---|
| <考察> | |
| 10 | 家庭でのゲームや動画の視聴については、児童（思う60%・やや思う34%）と保護者（思う64%・やや思う27%）の間でルールを決めて使用していることが分かる。ただし、一部の児童はゲーム・動画に依存しているとの情報もあるので注視しておきたい。 |
| 11 | 質問に対して、児童は決まりを守って、正しく行動できたと評価（思う81%・やや思う13%）している。それに対して、保護者（思う49%・やや思う42%）は、学校の指導をまだ十分ではないと捉えている。校内で注意を要する場面は、極めて少なく、児童はきちんと生活することができている。 |
| 12 | 児童（思う94%・やや思う3%）、教職員（思う87%・やや思う13%）ともに高い数値を示しており、安全に対する意識の高さがかげえる。しかし、保護者（思う39%・やや思う52%）の感覚として、学校の危機管理体制や安全な環境づくりなどの取組が伝わりづらい状況にあるので改善が必要である。 |
| 13 | 今年度の学校教育目標「よく学び、明るくやり抜く双岩っ子の育成」を日常から意識して教育活動に励んできた。自分の仕事だけでなく、職員間で互いをフォローし合う体制が整いつつある。 |
| 14 | 昨年度に行っていた取組を見直し、必要でないものは削減、継続して行うものは改善しながら業務にあたっている。ゆとりの部分では、個人差もあるが、職員の働きやすさを重視した学校運営を継続していく必要がある。 |
| <後期への方向性> | |
| | ○ 具体的な方策として、生活習慣調査（双岩っこのくらし）を通して実態を把握し、必要に応じて教育相談、保護者との情報交換などで改善を促していく。また、道徳、学級活動、保健体育などの教材を活用し、指導にあたる。 |
| | ○ 学校での指導の様子は保護者に分かりづらいため、校報、学級通信等で必要に応じて知らせるようにする。児童の言葉遣いや規範意識は、家庭の影響がかなり大きい。参観日、学Pなどの機会を通して保護者との連携を図り、健全育成に努めたい。 |
| | ○ 学校と地域による登下校の見守りや月一回の安全点検などの取組の成果が、児童の安全に対する意識が高さとして表れている。今度も地道な指導、見守り等を継続して行い、1年間無事故で終わられるようにしたい。 |
| | ○ 2学期は、絵を描く会、陸上部や音楽部の活動、学芸会などの学校行事が控えており、学校教育目標の具現化に向けた教職員の取組が試される機会も多い。多忙な時期を迎えるが、学校として成果が表れるよう、職員よさを引き出しながら学校運営に努めたい。 |
| | ○ 超過勤務や休日出勤などの減少がゆとりある職務遂行につながり、子どもたちの指導に良い影響をもたらすと考える。教職員の意識改革を促す声掛けを行いながら、働きがいのある職場づくりを目指していきたい。 |

温かい地域の中で、認め合い、助け合える集団を育成する。



<考察と後期への方向性>

| | |
|---|--|
| <p><考察></p> <p>15 挨拶については、個々によって捉え方が異なるため、児童、保護者、教職員の結果にも違いが表れている。保護者（思う49%・やや思う39%・思わない12%）、教職員（思う13%・やや思う87%）の数値は、改善の余地を感じさせる結果である。</p> <p>16 児童（思う72%・やや思う16%）は地域の行事などをとても楽しみにしており、数値以上に積極的に参加している。保護者（思う49%・やや思う48%）、教職員（思う25%・やや思う75%）ともに地域と学校の連携が良好な結果である。</p> <p>17 予想よりも児童（思う59%・やや思う34%）、保護者（思う39%・やや思う52%・思わない9%）、教職員（思う25%・やや思う50%・思わない25%）の全てにおいて低い数値となった。特に家庭における親子の会話については、児童理解につながる重要なポイントとなるため、家庭に対しても啓発が必要である。</p> <p>18 児童（思う94%・やや思う3%）の結果から、良好な人間関係を築くことができていると思われる。保護者（思う52%・やや思う36%）、教職員（思う50%・やや思う50%）についても同様であるが、学校での様子を話していない児童がいるためか、保護者の中に分からないという数値（12%）が見られるなど、家庭での会話不足が予想される。</p> <p>19 児童（思う100%）、保護者（思う46%・やや思う42%・分からない12%）、教職員（思う62%・やや思う38%）の結果から、本校のいじめに対する認識が高さ、未然防止に取り組む姿勢が一定の評価を得たと思われる。ただし、「どこにでもいじめは存在する」ものとして捉え、さらにいじめ防止に対する取組を推進していく必要がある。</p> | |
| <p><後期への方向性></p> <p>校内においては、登下校時に大きな声で挨拶する児童も多いが、家庭や校外での様子は十分に把握できていない。保護者と連携して実態把握をするとともに、校内や八代ブロックで行っている挨拶運動を推進し、どこでも誰にでも挨拶ができる双岩っ子を育てていきたい。</p> <p>昨年同時期（やや思う23%・分からない10%）の結果から見ると、質問に対する保護者の回答が良い傾向に変わっている。学校での様子や子ども一人一人の良さ、頑張りを紹介する機会を設け、信頼関係をさらに強固なものにしていきたい。</p> <p>小学校生活は、子どもたちの人格形成において重要な時期であるため、教師の働き掛けが必要となる。学校が「ハッピーテーブル20」の取組を推進し、親子のコミュニケーションを深める手立てとしたい。</p> <p>2学期は、参観日や学芸会などを通して子どもたちの様子を実際に見ていただくことができる。各学年において、一人一人の良さが際立つ教育活動を展開していきたい。</p> <p>児童の情報交換はICTを取り入れ、常に共有できる体制を整えている。また、子どもとの触れ合いを大切に教育相談を実施している。アンケート結果を受け止め、今後も、いじめ根絶に向け、指導と支援を区別しながら子どもたちを見守りたい。</p> | |

第2回学校評価委員会記録(9/30)

1 学校長挨拶

- ・ 本日はお集まりいただき大変ありがたい。先週は修学旅行であったが、学級担任は学校にいる5年生と meet(ミート)で出席確認を行っていた。デジタルの進歩を感じるが、人間の成長に必要な基礎基本をしっかりと固めておきたい。双岩の子どもたちは、素直で真面目、笑顔が良いと思っている。今日は、忌たんのない御意見をうかがいたい。

※ アンケート評価結果の考察、説明(別紙資料)

2 質疑・意見交換(評価結果を考察し、課題となる項目について)

- 教育相談はどのように行われているのだろうか。
⇒ 月1回を目安に学級担任と直接話す機会を設けている。その他にも、アンケート調査や八幡浜元気ノートなどを活用し、児童理解に努めている。
- 読書について
 - ・ 家庭では、宿題をする前に本を読んでいる。
 - ・ 読書が嫌いではないが、家で読む姿はあまり見かけなかった。
 - ・ 新聞を読んで感想を書くことが苦手なように見える。
 - ・ 家庭に本がないという環境もあるようだ。親も本を読んでいない。今後はメールなどを読み取り、相手の気持ちを理解することが大切だと思う。
- 家庭での手伝いについて
 - ・ 家庭によって手伝いの内容が違っている。各家庭それぞれの考えがあるため、アンケート結果が全てではないと思う。
 - ・ 親が作業する姿を見せたり、ともに行ったりすることが手伝いにつながるのではないだろうか。
- 体力向上や健康増進について
 - ・ 地域でも縄跳びをする子どもの姿を見かけることがある。暑い時期だったので、運動をする機会が少なかったのではないか。
 - ・ 運動をする子としない子の二極化が見られる。全員一律の指導が難しい。学校生活の中で運動する機会を設け、工夫した取組を進めていきたい。
- ゲームや動画について
 - ・ やはり家庭では、動画などを見ている。ゲームには制限をかけており、一定のルールを守ることができている。
 - ・ ゲームと言っても様々な種類があるので、全てが悪いとは言えない。

- ・ ゲームだけではなく、ログインボーナス（ログインをするとアイテムがもらえるなど）が目当てのケースもある。
 - ・ やはり、インターネットを使ったオンラインゲーム、チャットなどのゲームを行っている。実際に、海外の人とつながったことあった。
- 挨拶について
- ・ 挨拶は、大人がしたらする。地域の大人でも挨拶をしない人がいる。
 - ・ 地域活動に協力する人は、挨拶をする人でもある。子どもたちの地域行事への参加は、挨拶をするよい機会となる。
 - ・ 地域の大人を知ることが挨拶にもつながる。
- その他
- ・ 高学年になると、あまり自分から学校での様子を話すことはないが、成長の過程において自然なことでもある。
 - ・ 女の子だからかもしれないが、うれしかったこと、嫌だったことなどは話してくる。
 - ・ 中学生になると、登下校のバスの中でいろいろな話をしており、人間関係のトラブルにつながったこともあるようだ。
 - ・ 統合後、子どもたちの人間関係や勉強が心配である。教員の数を増やすなどの対応をとっていただきたい。
 - ・ 水泳部や陸上部の選手決定を計画どおりに伝えてほしい。
 - ・ 夏休み中の「双岩学び隊」が本当にありがたかった。今後の継続もぜひお願いしたい。

3 閉会挨拶（PTA会長）

- ・ 今日はお忙しい中、いろいろな情報を得ることができてよかった。1学期、夏休みが過ぎ、2学期になっているが、学校全体の雰囲気がとてもよいと感じている。今後ともよろしくお願いしたい。